

今年の総会で、「NPO 研究所」創設をご案内しましたが、当面、NPO・まちづくり支援に関わる課題整理をセミクローズドの学習会で進めています。第1回は、地縁組織の特性と今後の地域づくりにおける位置づけがテーマ。谷口功先生（椋山女学園大学准教授）に、「コミュニティコーディネートの難しさ～地縁型組織の現在から考える～」と題してお話をいただき、意見交換をしました。（報告：三島知斗世）



▲右手奥が、谷口功先生（椋山女学園大学准教授）

■お話の概要■

※レポートでは、一部を抜粋してご報告します。

- I. 課題の所在    II. 町内会の機能と特徴    III. コミュニティの制度化    IV. 地縁型組織の実際

## Point 1 町内会の機能分析の視点 ～多面性への理解が必要～

○町内会の機能・特徴について、岩崎信彦氏、鳥越皓之氏、中田寛氏の説を紹介していただきました。例えば、岩崎信彦氏が述べる町内会の機能をタルコット・パーソンズのAGIL 図式に当てはめると、以下のようになります。町内会の機能の多面性が確認でき、また、テーマ型市民活動と連携する際の難しさもうかがえます。

	業績本位		
普遍主義	<b>①適応 (Adaptation)</b> 二公的・共同的資源の調達機能 ・会費徴収による財政基礎の確立 ・行政に対する協力・陳情活動 ・町内会財産の管理運用など	<b>②目標達成 (Goal)</b> 二共同生活の環境・条件の整備・保全機能 ・地域の客観的生活基盤の整備 ・共同生活の防衛 ・地域福祉活動	
	<b>④潜在的機能 (Latent)</b> 二意見交換と合意の形成、個性の交流と共同感情の表出機能 ・町内の親睦、交流の活動 ・総会、役員会、研修会、会報誌の発行など	<b>③社会統合 (Integration)</b> 二町内社会の統合・調整機能 ・相互扶助・近隣共同 ・世代対象の活動とその集団への援助 ・伝統の保存      ・全世帯加入制	特殊主義
	所属本位		

## Point 2 コミュニティの制度化 ～各省による今日的位置づけ～

○①総務省の「地域自治システム」、②厚生労働省の「地域包括ケアシステム」、③「小規模多機能自治推進ネットワーク会議」、④内閣府地方創生推進室の「小さな拠点づくり」の動きが報告されました。いずれも、地域の課題解決活動や生活支援活動（サービス）の実施にあたっては、テーマ型市民活動との連携が必要になってきます。

## Point 3 地縁型組織の多層性 ～コミュニティの核がどこにあるのか～

○地縁型組織は、(1)地区単位の連合会、(2)町内会・自治会、(3)班または組といった三層構造となっています。従来の自治体行政では(2)が核となっていました。Point 2のように、課題解決やサービス提供では(1)での取り組みが必要になってきます。他方で、防災や日常生活の支え合いは(3)が重要です。このようにテーマ（及び管轄する行政担当課）によって、基盤となるコミュニティの範囲が異なる状況があります。名古屋市・豊橋市・豊田市のように入地縁型組織の区域と学区がうまく重なっている自治体もあれば、そうでない自治体もあります。

○谷口先生からは、「地縁型組織の区域と行政的な区域が整合しないことは、住民にとって包摂のチャンスが多様にあるという見方もできるが、往々にして住民が地域計画や自分たちの活動の焦点をどの区域に当てればよいのかわかりにくくなる。役員の重複、行政と住民との間の齟齬も生まれやすい」との指摘がありました。

レポーター  
のつぶやき  
三島知斗世

最後に、谷口先生は、区域と住民組織の整合性の有無にかかわらず、「重要なのは『住民主体』や『協働性』をどう推進していくかだ」と述べられました。そのためには、市民が貢献的・利他的に考え行動することを喚起できるファシリテーターの存在も重要で、「コミュニティコーディネート」を真に果たせるかが問われます。伝統や多面性を持つ地縁型組織が変化することは難しさもありますが、地域生活をよりよいものにしていくために、政策動向等も把握し、市民が協議しビジョンを持って関われる動きを応援できたらと改めて感じました。